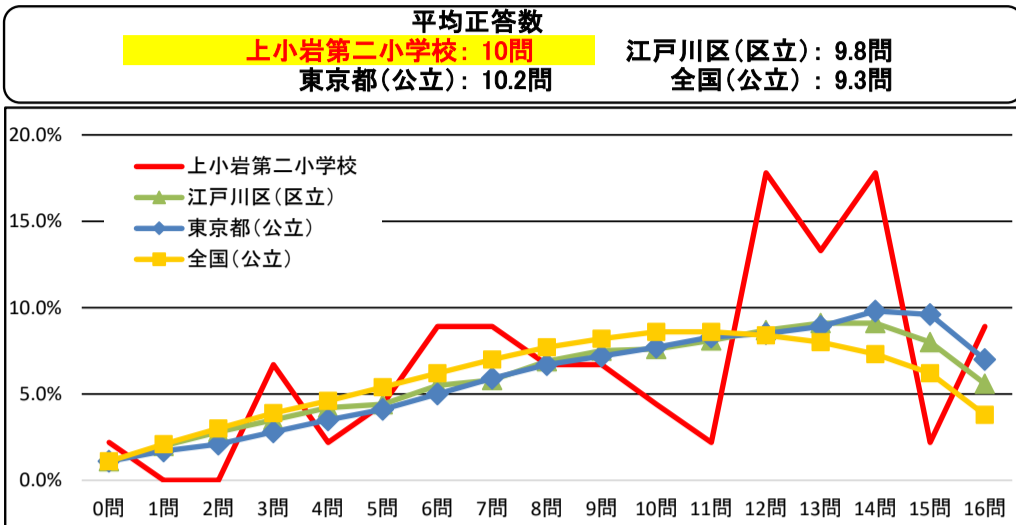


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】 上小岩第二小学校

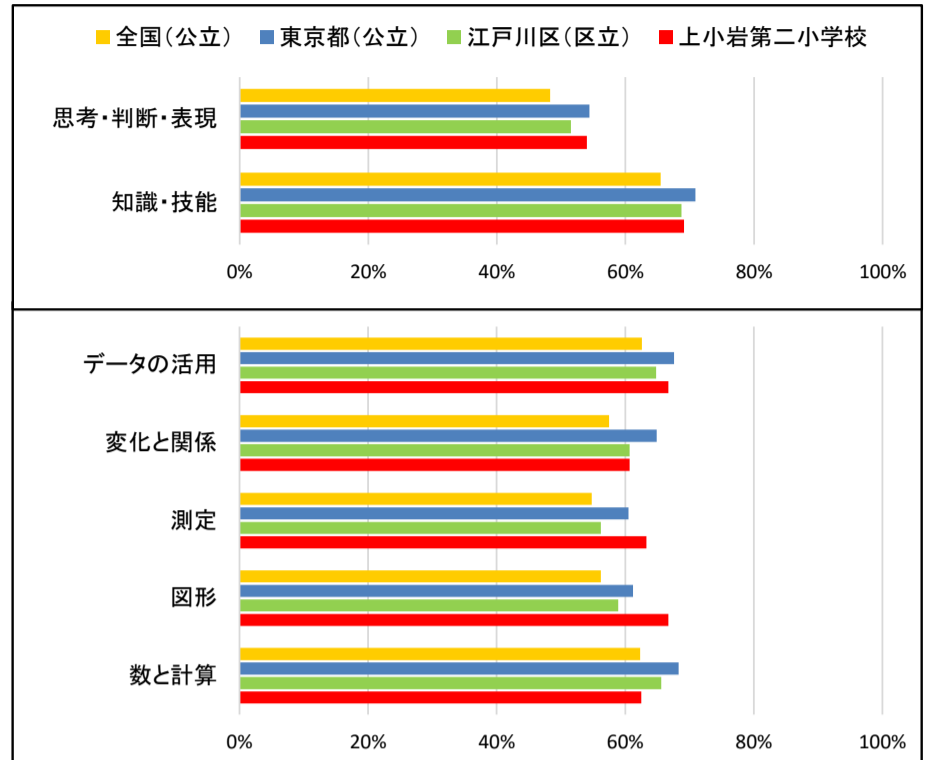
正答数分布



【平均正答率の差】

上小岩第二小学校	63%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-1.0

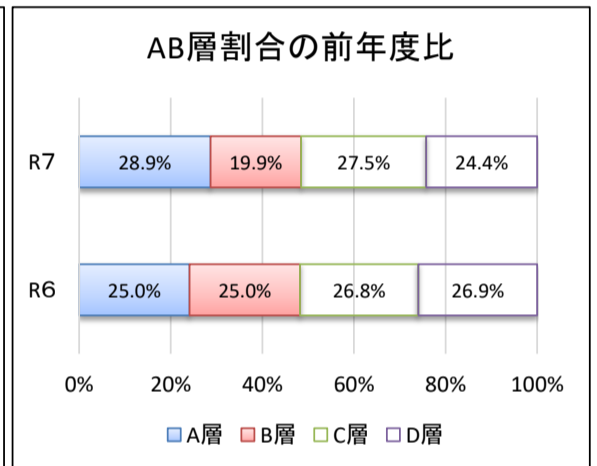
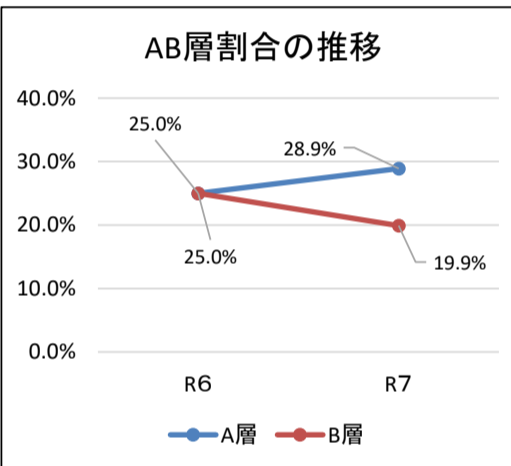
「領域別」の結果



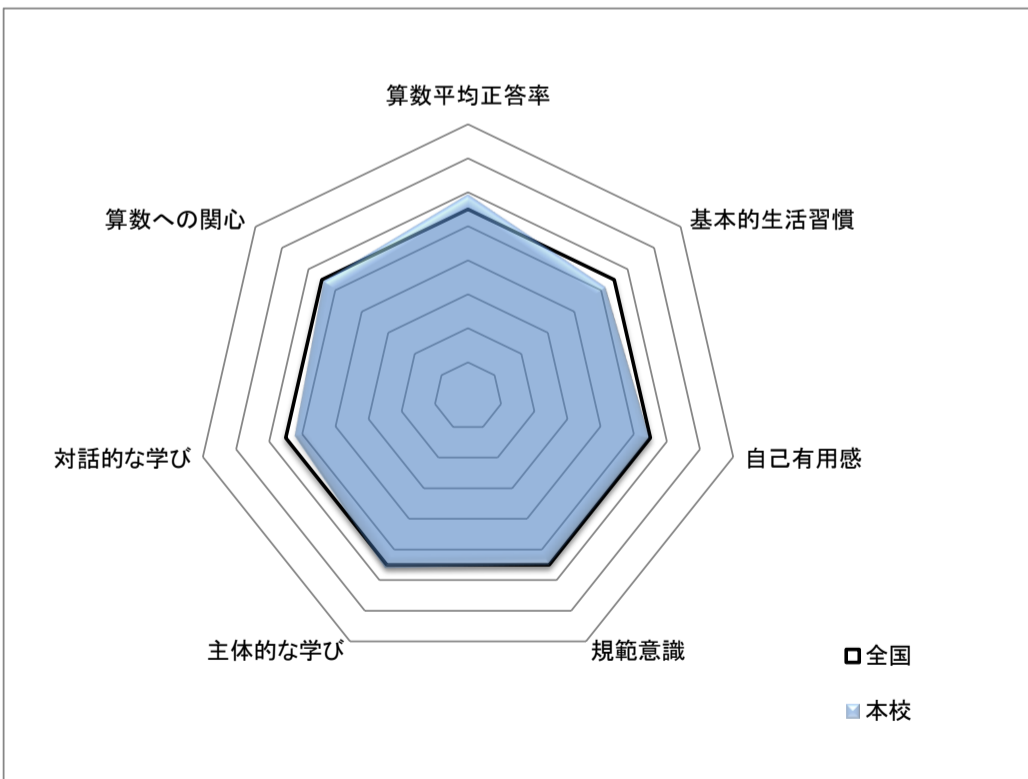
四分位における割合（都全体の四分位による）

算数	上位 ← 下位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 7~10問	D層 0~6問
上小岩第二小学校	28.9%	19.9%	27.5%	24.4%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- ・基本的にはバランスの取れた形をしている。
- ・算数平均回答率は、全国平均を上回り、主体的な学び、規範意識は、全国平均をやや上回っている。
- ・自己有用感、算数への関心は、全国平均と同等であった。
- ・基本的な生活習慣、対話的な学びについては、全国平均をやや下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭に対しては、学校での取り組みが伝わるよう取り組み内容を学年だよりやtetoru配信で周知するようにしている。また、地域に対しては、学校関係者評価をHPIに載せ、学校の取り組みを周知している。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

算数科において、本校のAB層の割合は、R6と比べ、横ばい状態にあるがA層の割合が増えていることが分かる。これまで、AB層については、発展的な問題に取り組む時間を十分に確保するとともに、自分が学んだことを他者に伝えたり、教えたりする活動を取り入れてきた。自身児童がインプットした内容をアウトプットすることにより学力の定着が見られた。また、C層がB層へと移行するよう、EDOスクに積極的に参加を促すとともに、当該児童の課題となることが改善されるような課題を行えるようにした。EDOスク講師と連携を図り、児童にとってより必要感のある内容になるようにしている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

校内研究の主題を「わかった、できた」の達成感を味わえる授業の実践～児童が主体的に学ぶことができる算数学習～とし、本校の児童の実態を受け、教員たちの授業力向上について興味関心が高い内容ごとにグループを編成し、研究を行いながら授業改善に取り組んでいる。また、月2回程度OJT主任が企画し、教員一人一人の強みを生かした研修会を行っている。

・基礎学力の保障

算数の授業中、四則計算力が向上できるようなプリントを定期的に行っている。また、授業時間内ではサポートしきれない児童については、休み時間や下校後に支援するようにしている。

・学習習慣の確立

児童の学習習慣の確立を目指し、全校で、一単位時間の授業の流れを江戸川区スタンダードを参考にしながら行うようにしている。また、児童が自ら学ぶことができるためには、課題を見いだすことや自身の取り組みを振り返り、次につなげる力が重要であると考え、興味関心を高められるような導入部分の工夫や児童の実態に応じて記述式やICTを活用した振り返りを行うようにしている。

・AB層の育成

AB層の育成に向け、算数少人数習熟度別クラスで学習を進めている。特に、AB層が多いクラスについては、児童が既に知識として知っていることを生かして学ぶことができているかを確認するような授業を展開している。また、AB層にいる児童によっても学力や興味関心が異なることがあるので、児童一人一人に対応できるような課題設定をするようにしている。